

タイ銀行



タイ銀行本店

ワット・アルン
(暁の寺)



タイ銀行
貨幣博物館

タイの中央銀行であるタイ銀行（Bank of Thailand）は、1939年にタイ国立銀行公社として設立しました。当初は、国債や国庫金の事務、決済業務など限られた業務を担っていましたが、その後、為替管理などへと業務範囲を拡げました。1942年4月にタイ銀行法が制定され、同年12月に中央銀行として業務を開始しました。王室のヴィヴァダナジャヤ王子が初代総裁です。現在では、金融政策の策定、金融機関の監督、政府の銀行・銀行の銀行としての業務、外貨準備の管理や銀行券の印刷・発行業務などを

担い、約4300人の職員が首都バンコクの本店ほか、国内3支店および海外2事務所で働いています。また、タイ銀行は、役員（理事以上）に占める女性の割合が高い（13人中8人）ことでも有名です。

タイでは、1997年の通貨危機発生の後、不良債権処理や積極的な構造改革による経済再建に尽力した結果、実質国内総生産は2002年に通貨危機前の水準まで回復し、2004年にはそこからさらに1割強拡大しています。

また、通貨危機の経験を踏まえて、2000年には東南アジア諸国連

合10カ国および日本・中国・韓国（ASEAN+3）の間で、東アジア域内の金融・通貨協力を強化するとの合意（チェンマイ・イニシアティブ）が成立しました。その下で、日本銀行は、財務大臣の代理人としてタイ銀行と2001年7月、片務的に短期流動性を供給する第1次2国間通貨スワップ協定を結び、そして本年3月にはそれを双務的なものに変更した第2次協定を締結しました。このほか、両行は、東アジア・オセアニア中央銀行役員会議（EMEAP）等の国際会議やセミナーを通して交流を深めています。